

2017年 (平成29年) 11月20日 月曜日

岐阜でオープン 合同分科会開く

レアメタル資源
再生技術研究会

【各務原】レアメタル資源再生技術研究会(会長＝藤田豊久・東京大学教授)は17日、岐阜県各務原市の岐阜県テクノプラザでオープン合同分科会を開

催。「広域マルチバリュー循環とモバイル・フ



あいさつする藤田会長

ァインケミカル・リサイクル」世界的なEVシフトに向けたレアアース資源循環の提案」をテーマに、有識者による講演やレアアース回収の施設見学などを行った。

主催分科会はネオジム磁石分科会、エマルジョンフロー分科会、モバイルリサイクル分科会で、当日はリサイクル関連分野を中心に約80人が参加。冒頭、藤田会長は「足元、希土類の価格はネオジム、ジスプロシウムなど値上がりが見

上がりが見

著。また電気自動車に向けた世界的な動きも背景に需要環境が変化している。今回の著名な専門家の皆様が発表する成果は会員を中心に国内外の企業と連携しビジネス化を図っていく」とあいさつした。

続いて物質・材料研究機構アドバイザーの原田幸明氏による「広域マルチバリュー循環におけるモバイル・フ

アイケミカル・リサイクルの意義」、日本原子力研究開発機構研究主席の長縄弘親氏による「フアイケミカル・リサイクルを可能とするエマルジョンフロ

「抽出技術」、シーエム

シー技術開発EFSシステム部の柳瀬信之部長による「溶媒抽出法が身近になるEFS抽出装置」、シーエムシー技術開発の河邊憲次社長による「廃ネオジム磁石からのレアアース・モバイルリサイクルの経済性とビジネスモデル」に関する講演が行

われた。

講演後はシーエムシー技術開発と大手金属リサイクル企業の大脇商店の共同鶴沼REセクターに移動。REモバイルリサイクル実証センターで各種ネオジム磁石スクラップやレアアースの回収装置、分離精製装置を見学した。